

掲示板のことば

自分というものが

どこにもない

いつも

仮面をつけている

自分はいったい誰なんだろう、と考えたことはありませんか？ 僕は、あります。「あなたは誰ですか？」と聞かれたとしたら、何と応えるでしょうか。「僕は、小林尚樹です」と応えることもできます。でもそれは、「あなたの名前は何かですか？」という質問の応えとしてならば分かりますが、「あなたは誰ですか？」という質問の応えになっているのでしょうか。

僕は、子どもの前では父親であり、妻の前では夫であり、母の前では子どもであり、ご門徒さんの前では住職であり、スーパーマーケットの店員さんの前ではお客さんであります。小学生にとってはおじさんですが、80歳の人にとっては、まだまだ若造でしょう。

いつでも、どこでも、誰にでも、私は〇〇です、と言えるような自分は、一体どんな自分なのでしょう。そんな自分に出会ってみたいと思ったことはありませんか？ そもそも、そんな「自分」は存在するのでしょうか。

僕は、誰でも、そんな「自分」に出会うことができと思っています。いつでも、どこでも、誰にでも、変わることのない「自分」を見つけることができと思っています。大事なことは、その自分を映し出す鏡を意識することです。

僕は、仏教というものが、その「鏡」なのだと思っています。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹